

心に火をつけるフォーラム 令和5年7月4日

貧困対策への多大なる貢献から、2006年にノーベル平和賞を受賞され、世界中の教科書でも取り上げられているムハマド・ユヌス博士をバングラデシュからお迎えし、全校生徒へのスピーチや質疑応答、交流などを実施しました。

世界各国を歴訪されているユヌス博士ですが、茨城県に来られるのは初めてとのこと。大変光栄なことに、今回の日本への旅の締めくくりを、本校への訪問に充ててくださいました。



ノーベル平和賞につながる活動は、意外にも、とても小さなことから始まったとのこと。「自分の目の前にいた、たった一人の困っている人を助けたかっただけなのです。彼女が貧困から抜けだすためにはどうしたらいいのか。1970年代後半、バングラデシュには高金利の銀行しかなく、貧困のためにお金を借りると、もっとひどい状態になるという問題がありました。しかたなく自分のポケットマネーを貸しました。ポケットマネーだからとても少額。でも、彼女は とても喜んでくれて、貸した私もハッピーになりました。すぐに村中で話題となって、人気になってしまいました。とても私一人でお貸しすることはできない。そこで、私は銀行を作りました。最初はその村で。それはすぐに村外、国中へと広がり、結果的には世界に広がりました。私は次のことを学びました。大きな課題の解決には、まず自分のまわりの小さなことから始めることが大事だということ。最初は1人、2人という規模でよいのです」

「失敗と成功は真逆のように思われますが、現実的にはそうではありません。失敗と成功はコインの表と裏のようなもの。とても近くにある。失敗を恐れしないでください。失敗は人生

においてとても大事なもの。失敗は失望ではなく学習です。失敗と成功を重ねながら、前に進むのです」



「人類にとって不可能はありません。これは何億年もかけて証明されてきました。人類は、海の向こうに行きたいと思い、海に出ることができた。空を飛びたいと思って、空を飛べた。月に行きたいと思って、月に行けた。星に行きたいと願って、星に行こうとしている。最初のワンステップは『行きたい』と想像したこと。人類に不可能はないと信じてください」



このように、全校生徒の背中を力強く押してくださったユヌス博士。生徒からの質問にも丁寧に応えられ、退場の際には、多くの生徒と握手をしてくださいました。



生徒からは、「人のために何ができるかを考え、失敗を恐れずに挑戦、行動することの大切さがわかりました」「自分に出来ることを見つけるのはそんなに難しいことではないとわ

かりました」「自分の行動や進路を見直すきっかけになりました」「将来迷ったとき、つまずいたときの糧にできるよう心に留めたい」といった感想が多く寄せられ、それぞれの心にしっかりと火がついたことがうかがえます。

